

羽咋市の景観を構成する要素は、先に述べたとおり市全域にわたることから、景観形成の目標を達成するため、「自然的景観」、「歴史・文化的景観」、「まちなみの景観」の現況をもとに、次の4つの基本方針を定めます。

（１）自然的景観の形成

「自然的景観」として、海と砂丘地帯、邑知潟と羽咋川や子浦川などの河川、その周辺の低地帯である農地、眉丈山系と宝達山系である丘陵などの自然環境にめぐまれており、これらの貴重な自然環境を守り、育てつつ、人々が親しみやすい自然的な景観形成を図るものとします。

- ・ 海岸や河川の保全、活用
- ・ 田園や丘陵地の緑の景観保全、育成



千里浜海岸



邑知潟

（２）歴史・文化的景観の形成

「歴史・文化的景観」には、地域の歴史・文化を物語る歴史的遺産である社寺、遺跡・史跡、あるいは文学、芸能、祭りなどがあります。これらを守り、活かし、また、受け継いでいくことにより、人々の暮らしを彩りながら、歴史・文化を継承していくとともに、新しい文化を創造し、調和とまとまりのある景観の形成を図るものとします。

- ・ 歴史的遺産や祭りなど文化的景観の保存、活用
- ・ 人と自然との関わりのなかでつくりだされた棚田などの景観の保存、活用、管理



気多大社



神子原棚田

（３）まちなみの景観の形成

「まちなみの景観」には、主として建物群によって構成される住宅地、商業地、工業地あるいは集落地などの市街地の景観や道路、公園などの都市基盤施設、公共施設が重要な役割を果たしています。これらの市街地や集落地の魅力ある景観を形成するためには、それぞれの地域にふさわしい景観形成を図る必要があります。

- ・ ゆとりとうるおいがあり、調和のとれたまちなみ景観の形成
- ・ 地域の歴史・風土に根ざしたまちなみ景観の形成
- ・ 新しい文化を創造する魅力的な景観の創出
- ・ 個性的で魅力のある地域づくり



邑知湯大橋



パセオ通り

（４）協働して行う良好な景観の形成

このような良好な景観の形成は、まちづくりにおいて市民、事業者及び行政を問わず個々の事業にあわせ常に意識すべきものです。

また、まちづくり全般に関わる景観形成や歴史的・文化的遺産の保存・活用、自然景観の保全などにあっては、行政や事業者に加え、市民の理解や協力に基づいた取り組みが不可欠です。

そのために、互いに対等な立場で果たすべき役割と責任を自覚し、景観づくりという共通の目標に向かって市民、事業者及び行政が連携して課題に取り組み「羽咋の景観づくり」を進めていくこととします。

- ・ 市民、事業者と行政の協働による取り組み
- ・ 市の所有する歴史的・文化遺産の市民による維持、活用
- ・ 市民、事業者が所有する庭園や施設などの市民の手による公開



しだれ桜の里(千路町)



永光寺公園

地域別景観形成方針

地域別景観形成方針の考え方

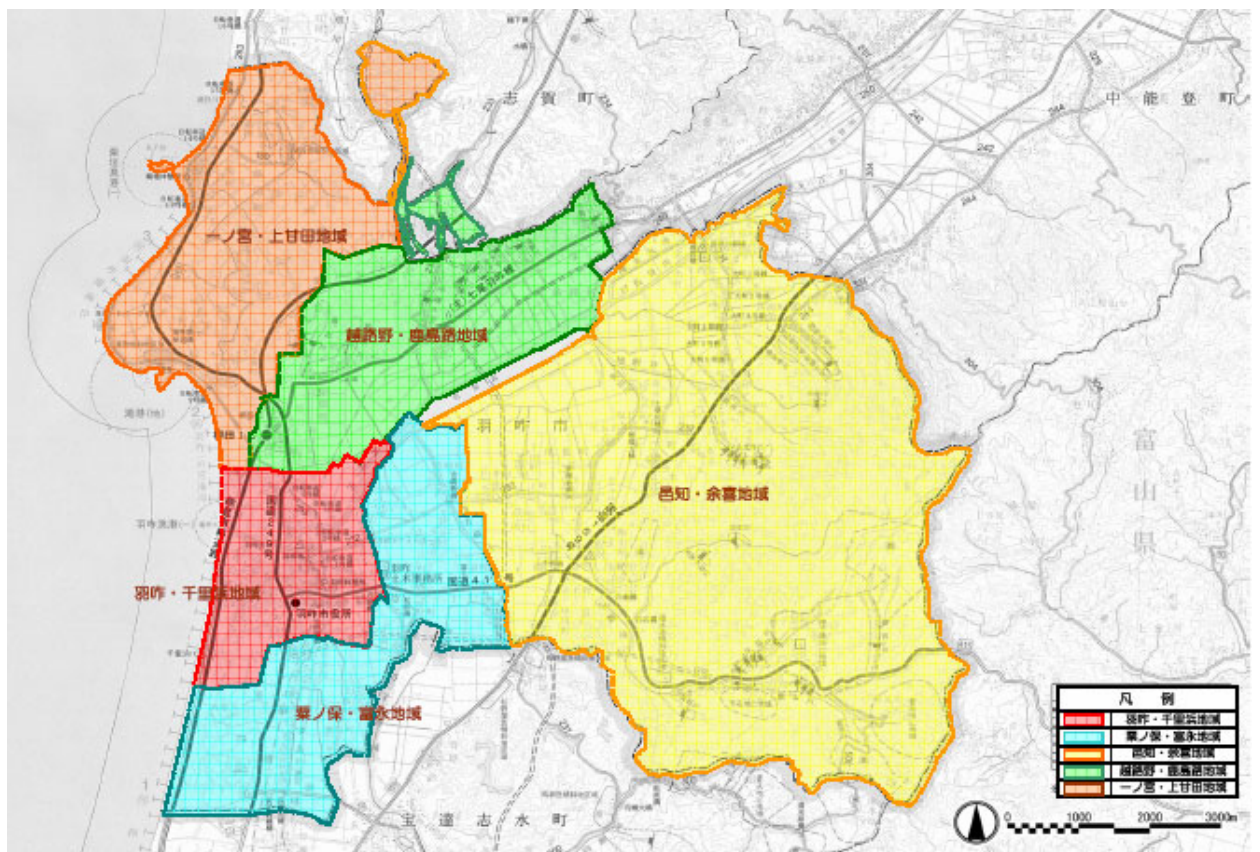
羽咋市全体を対象とした景観形成基本方針に基づき、地域ごとの景観形成を具体的に推進するために、地域的広がりや地域社会のまとまりに対応した地域別景観形成方針を設定します。

その地域の特性を踏まえて、景観まちづくりの大きな方向性を提示し、建築行為等を行う市民・事業者の皆さんや行政が、景観に配慮した事業を自主的に行う際の指針として位置付けします。

地域の区分としては、第四次羽咋市総合計画や都市計画マスタープランなどの諸計画や位置・交通、自然的条件、社会条件や景観の現況に基づき、「羽咋・千里浜地域」、「粟ノ保・富永地域」、「邑知・余喜地域」、「越路野・鹿島路地域」、「一ノ宮・上甘田地域」の5地域に区分します。

ここでは、各地域の景観特性と課題および石川県景観計画の位置付けを整理したうえで、景観形成の目標を設定します。

図 地域区分図



(1) 羽咋・千里浜地域

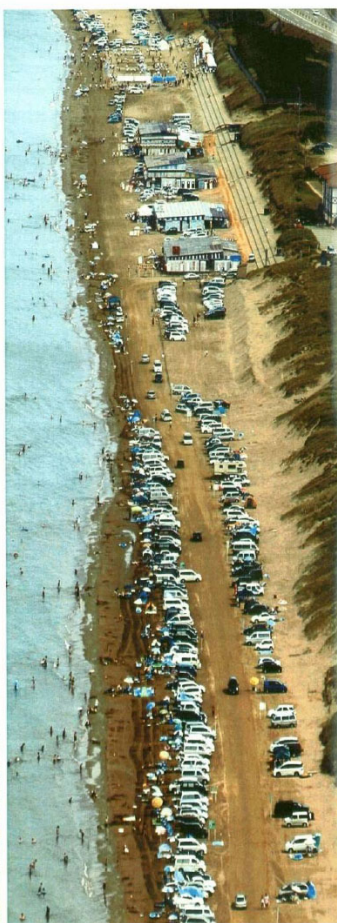
ア. 景観特性・課題

- 代表的な白砂青松の景観であるなぎさドライブウェイの千里浜海岸や休暇村能登千里浜から近い釜屋海岸などでは、日本海を望む眺望に優れた景観を形成しています。しかし、最近では同海岸の浸食が進み、来訪者も減少しています。市民に地域の重要な財産であることを啓発し、地域の活性化に取り組む必要があります。

千里浜海岸侵食状況



平成 6 年 8 月



平成 16 年 8 月



千里浜海岸

日本で唯一、車で走行できるなぎさドライブウェイ。沈む夕日がロマンチックです。

- 中心部は、国道 249 号が羽咋市の大動脈として重要な道路であって、その沿道をまたぎ住宅系と商業系に大きく二分しています。



中央通り商店街

パセオ通りとの交差点には、その空間を利用した整備がされていますが、町並みの魅力が足りません。

- ・ 国道 249 号沿線は、中央通り商店街が建ち並んでいますが、その景観の統一感や、駐車場などの狭さから、まちなみの魅力がありません。

- まちの顔となる市街地での代表的な景観資源が不足しています。



パセオ通り

統一的な景観に整備されましたが、駅前商店街などとの連携を図るとともに地区拠点としての顔づくりが必要です。



駅前商店街

歩行者スペースが不十分であり、安全性の確保とパセオ通りなどとの連携が必要です。

- ・ かつては、駅前から国道 249 号までの間にまとまって商店街が建ち並んで、にぎわっていました。現在も商店街は存続していますが、にぎわいがありません。

道路が拡幅され、統一的な景観に整備された商店街のパセオ通りは、羽咋神社や本念寺を中心とした駅前や本町・中央町商店街との連携が必要です。

長者川（八幡神社側）



羽咋駅前（西口）



- ・駅前（西口）においてもU F O形の照明や擬音彫刻・花壇などが点在していますが、駅前広場を含めそれらのつながりやデザインが考慮されていません。
- ・長者川では、水辺景観に配慮した整備がされましたが、水と親しむためにも川の浄化が望まれ、川沿いの八幡神社の境内と緑地などを一体とした整備をする必要があります。

- 市街地では、比較的建物の密度が高くなっており、建築年次の古い町家といわれる建物や神社仏閣などの歴史的景観資源も点在しています。
- 地域の歴史的な建物と懐かしい風景が失われつつあります。

市街地の町家



本念寺山門



- ・古い町家や建造物が、市街地に点在していますが、維持保存の困難化が懸念されています。
- ・本念寺には、歴史を感じさせる山門が見られ、まちの中に落ち着いた空間を創り出しています。

○ 住宅地

市街地の細街路



新市街地



ひばりヶ丘住宅



- ・大川町北新や御坊山町は、計画的に整備された良好な低層住宅地ですが、ブロック塀が多いので、生け垣や緑などの景観形成に配慮が必要です。
- ・島出町の「ひばりヶ丘住宅団地」は、老朽化が進んでおり、周辺の安全性とともに景観の阻害要因となっています。
- ・千里浜町は、良好な低層住宅地ですが、かつて漁村であった時の細い街路が現在でも多く見られます。
- ・千里浜町の新市街地では、道路や公園は計画的に整備されたものですが、街路樹などの緑が少なく、生垣などの良好な低層住宅地の景観形成が望まれます。
- ・千里浜町南部の未整備地で、無秩序な開発による住宅団地などが増えてきています。計画的な開発整備が必要です。

○ その他

休暇村能登千里浜



中央公園



県道若部川原線



- ・中央公園は街なかの貴重な広場ですが、その用途が不明確であり、四季が感じられる緑が少なく、市民の憩いの場となるような再整備が必要です。
- ・休暇村能登千里浜は、地形を活かすとともに周辺環境と調和するように施設整備に工夫した景観を形成しています。
- ・県道若部川原線の駅周辺は、都市計画道路として整備され、川沿いには高木による植栽も施され、良好な空間を演出しています。

唐戸山



旧工場跡地

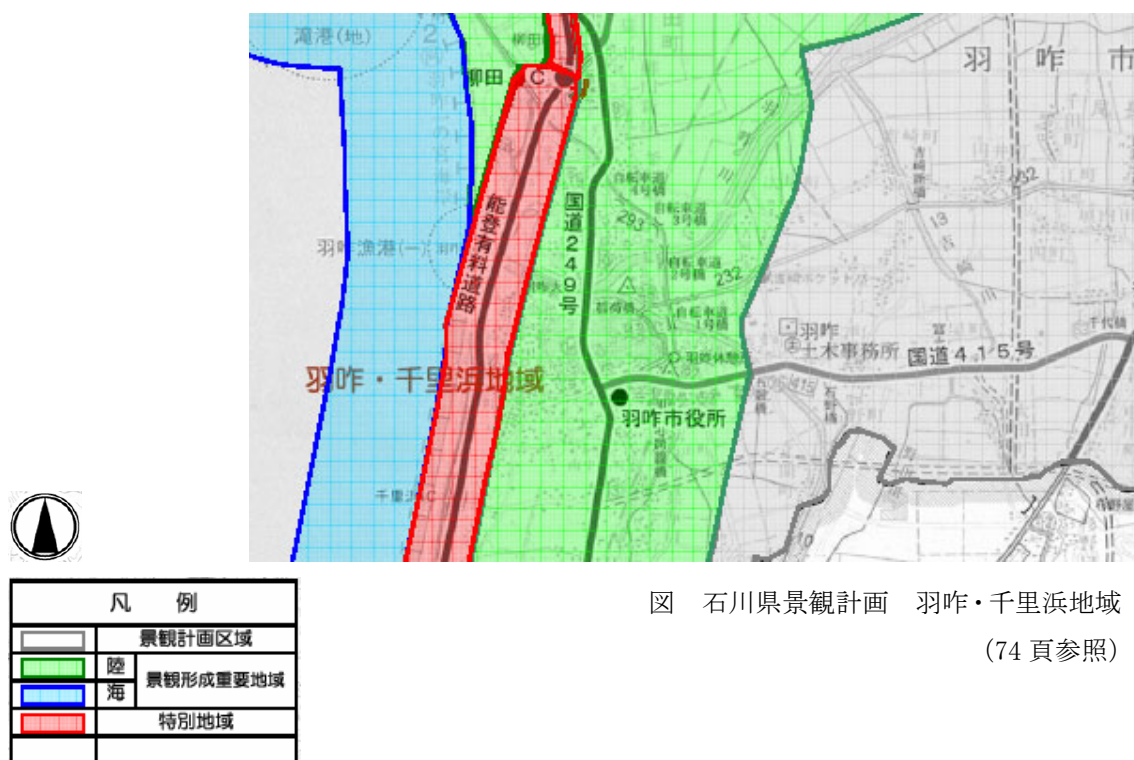


- ・唐戸山の凹型の地形と桜並木は特有の空間を醸し出しています。
- ・近代になって発達した繊維産業が衰退し、現在はその一部を残し、住宅団地や空き地となっており、空き地整備には敷地周辺の景観に配慮した再開発が望まれます。
- ・空き店舗や空き地・駐車場が多く、低未利用地が存在しています。

市街地の低未利用地



イ. 石川県景観計画の位置付け



能登有料道路沿線については、その道路境界線から2km(海域について汀線1km)を景観形成重要エリアに指定しており、地域の特性に応じた規制誘導を図るとしています。また、より積極的な景観規制を図るため、その道路境界線より両側200mを特別エリアに指定しています。

千里浜海岸は、特別エリアに含まれ砂浜や海岸植生の保全、海岸景観と調和した施設の整備などにより、シークエンス景観(移動に伴い連続・変化する景観)の保全・創出を図るとしています。

また、本地域のほとんどが景観形成重要エリアに含まれていますが、その他の一部が緩やかな規制誘導を行う景観エリアに指定されています。

ウ. 景観まちづくりの目標

目標1：羽咋市の顔にふさわしい中心市街地の景観づくり

- ・羽咋神社を中心とした商店街は、個々の建物や店の創意工夫を活かしつつ、建物の色彩、広告・看板の協調など、通りや境界の特徴をひきたてるような秩序あるまちなみを誘導し、羽咋市の中心市街地にふさわしい景観形成が必要です。
- ・商業地らしい景観づくりのためには、駅前や商店街の通りに向けた表情が大切です。

- ・店の出入り口の構えやディスプレイを通りに対して美しくしつらえ、サービスヤード、駐車場の修景などを行いながら、表情あるまちなみを形成していく必要があります。
- ・商業地域は、住宅ゾーンとも隣り合う立地となることから、けばけばしい色彩や、まぶしすぎる照明、大きすぎる看板など住宅地の環境を乱すような要素は避けるなどの配慮を強く促していく必要があります。



- ・商業者や市民による通りの美化・花植えなどが、街のところどころに見られます。このような個々の魅力ある景観づくりを推進し、地区の魅力要素として積極的にPRするなどして、周辺に広げていく取り組みが必要です。

目標2：自然風景を損なわない土地利用や建築物などのデザインとする

- ・海岸周辺では、能登有料道路や汐見大橋などからの広がりのある眺めを大切に、適切な敷地利用や建物デザインとすることが大切です。

目標3：一人ひとりの気配りから地域コミュニティへと育てる景観づくり

- ・建物や外構、庭木の維持管理に気を配るなど、日常的に身近な景観づくりを行うことが大切です。
- ・住宅地では、敷地や窓辺の緑や花を美しく手入れしている住宅が所々に見られます。これらをお手本にしながら、地域や地区に広げていくことが大切です。
- ・また、住まい方の変化などに対応し、維持しやすい植栽方法などの普及を図り、緑を大切にできる環境を整えていく必要があります。
- ・まちなみや景観資源が大切にされていることが、近隣や地域の人たちに目に見えることで、この取り組みが地区、地域に広がっていくことが期待されます。

目にすることで、個の取り組みが周辺に波及していくように・・・



目標 4：地域の景観や生活環境の質を高めるまちづくり

・市街地内には様々なタイプの住宅地が形成されています。相互になじみ合うために、ゆるやかな協調を心がけることが大切です。とくに、住宅と店舗、事業所など

規模やデザインが異なっても緩やかに協調し合う



敷地部では特に空間のゆと

りや植栽などを十分に確保

が隣り合うところでは、ゆとりのある空間の演出や、より豊かな植栽を用いることで、規模やデザインの差異を和らげる配慮が必要です。

目標 5：新市街地は、周辺の地域性や環境と調和した、新たな景観づくり

・新市街地は、計画的な土地利用とともに、個々の住宅のデザインが主張しすぎて落ち着きのない景観とならないよう、デザインの協調を図り、通りや境界のイメージをまとまりのあるものとする必要があります。

目標 6：地域の歴史的資源を尊重する

・羽咋神社や本念寺、古い町家などは、その地域の文化や歴史を語る貴重な財産です。これらを地域の財産として積極的に保全活用するとともに、寺社の参道周辺などでは建物の建て方を工夫するなど、歴史的資源を尊重した景観づくりが求められています。



千里浜ニュータウン

・歩道内にある緑地帯の植栽は、地区住民のボランティアによって維持管理がされ、景観まちづくりが実践されています。